クロスロード新聞

第16号

2008年3月25日

例によって年度末！ばたばたも楽しい16号

発行元：108-8345　港区三田2-15-45
慶應義塾大学商学部　吉川肇子研究室内
クロスロードサポーター事務局

神戸クロスロード研究会総会第2回！

倒れそうに忙しい年度末に発行するのが好きかも知れない(?)事務局です。皆さんの職場はいかがでしょうか?

さて、今号も神戸クロスロード研究会の第2回総会(第1回は、2006年10月10日)の報告をはじめとして、充実の内容でお送りします。特に神戸クロスロード研究会では気になる新企画が目白押し。2-3ページをご覧ください。

ソナエーターは命名者の「あの方」、そう、真打ち登場です。飛散防止フィルムの貼り方まで伝授！7-8ページを読むべし、読むべし。

海外でのクロスロードって?

意外と海外でも好評なクロスロード。アジアでもベトナム、モンゴル、タイなどでお使いいただいています。

「どうやって外国の人にわかってもらうの?」と思われる方もあるかもしれません。実際にベトナムでやっていただいたときの導入の方法を静岡大学の鈴木清史先生(文化人類学)にご報告いただきました。4ページからの紹介です。

ベトナムでの議論

行ってきました、呉ダック！大人は体操、子どもはバッジシステムで！

広島県呉市での「ぼうさいダック」の展開をこの目で見てきました。

約1年ぶりの訪問でしたが、園児の皆さんはすべての動きを完璧に覚えていてくださいました。それに「ぼうさいダックの歌（うちらのため）(後述)」も覚えて歌ってくれました。

よくお勉強してくれた園児さんたちには「ダックバッジ」を贈呈。喜んでくれたかな?

大人はダック体操(写真参照)という新発明が！詳しくは5ページをご覧ください。

両手で頭を抱え込み～、机のしーたにもぐりましょう♪

目次

第1回も？	1
海外で?	1
行ってきました	1
神戸クロスロード研究会 第2回総会	2−3
ベトナムでクロスロード	4
ダックで健康体操	5
進級者発表	5
さて、問題です	5
ソナエーター(4)	6-7
こんなところに心理学(17)	8
しまった、シマッタ	8

クロスロード次号のご案内
発行予定日：5．26.

責任編集

- チームクロスロード
- クロスロード・サポーター
- SPECIAL THANKS:
  高知県地震・防災課
  小溝智子（漫画企画）

神戸クロスロード研究会第２回総会開催！

神戸市職員の震災経験から生まれたクロスロードを伝え、広めると共に、その可能性を探求する神戸クロスロード研究会の第２回総会が、さる1月23日(水)18時30分から、神戸市役所1号館24階の「協働と参画のプラットフォーム」の一角を借りて開催されました。

神戸クロスロード研究会は、神戸市職員有志により、平成17年9月7日に設立され(経緯については、クロスロード新聞第2号をご覧ください)、現在3年目に入っています。本来は、もっと早い時期に総会を開催するところ、何かと忙しい皆さんなので、ズルズルと年を越してしまった次第です。メンバーは現在16名。うち西、浜、山口、露口、吉本、桑原、柿本の計７名が出席しました。

◆１年間の活動

最初の議題は、２００７年の活動報告(下の一覧をご覧ください。)。

このように昨年の活動を振り返ると、とても充実した一年だったと、実感します。その内容を、次のように整理して、簡単にご紹介しますと・・・

〇新規“顧客”の開拓

1月のマッセ大阪にはじまり、亀岡市、高槻市、松下電産、高槻市、神戸市須磨区の防災福祉コミュニティと、色々な地域、団体にクロスロードを紹介することができました。高槻市の保健師研修には、神戸市の保健福祉局を通じて長田区職員として竹内さんが出張されたものです。

亀岡市の職員研修はクロスロード新聞第12号を、亀岡市民向け研修や亀岡市における展開はクロスロード新聞第14号、15号をご覧いただきたいですが、市民研修が222人の規模というのは前代未聞。大人数ゆえの難しさ、課題も体験したクロスロードになりました。

松下電産でのクロスロードは、大きなマイルストーンの１つです。神戸クロスロード研究会では、かねがね企業での実施を一つの目標にしていました。詳細は、後日投稿を予定していますが、組織文化の違う中で、リスクコミュニケーションを共有する、素敵な活動になりました。

熱心な議論が続きました

２００７年　神戸クロスロード研究会の活動

１月１９日(金)	マッセＯＳＡＫＡ「地方分権セミナー」でクロスロードを紹介(柿本、浜)
３月２２日(木)	ステップアップセミナー(神戸市職員時間外研修)にて“西クロスロード”を試演(西、山口、柿本、浜)
５月２７日(日)	「ファシリテーションフォーラム2007」で“西クロスロード”を紹介。(西、浜、柿本)
６月２２日(金)	亀岡市職員研修にてクロスロードによる防災研修を実施(大島、浜、柿本)
７月２１日(土)	神戸市建築協定委員の研修にてクロスロード(浜)
８月８日(水)	Ｋ－ＴＥＣにてクロスロードを実施(西、露口)
８月２６日（日）	神戸市北区星和台・鳴子防災福祉コミュニティでクロスロード(吉本、浜)
９月２４日(月)	亀岡市の市民向け防災研修でクロスロードを実施(浜、吉本、柿本)
１０月２５日(木)	松下電器産業　コンサルタントコミュニティセミナーにてクロスロード（西、浜）
１０月３１日(水)	高槻市の保健師研修にてクロスロードを実施(竹内)
１１月１７日(土)	須磨区防犯アカデミーでの体験クロスロード(浜)

「須磨区子育て支援ﾈｯﾄﾜｰｸ　地域連絡会」にて「子育てクロスロード」を実施（浜）

７月１０日(火)	菅の台・竜が台地区
７月１９日(木)	横尾地区
９月１３日(木)	地域連絡会代表者会
１０月　３日(水)	友が丘地区
１０月１５日(月)	東落合地区
１０月２３日(火)	若草地区

例によって年度末！
ばたばたも楽しい16号

Ｋ－ＴＥＣでのクロスロード。これも大きな意義のある活動です。「Ｋ－ＴＥＣ」(神戸防災技術者の会)とは、震災の経験を伝え、将来の防災に役立てようという、ＯＢを含む神戸市の技術系職員を中心とする集まりです。当然、阪神・淡路大震災のときには最前線に立たれた方も多く、神戸学院大学において１講座も持っています。その方たちに、果たしてクロスロードが受け入れられるのか。不安の中、実施されましたが、好評をもって迎えられ、ある方は、講演の際に併せてクロスロードを紹介することもあるそうです。

２回目のクロスロードの実施もあります。建築協定委員の研修、星和台、須磨区防犯アカデミーでのクロスロードは、いずれも一昨年にも実施したもので、好評につき再度実施されたものです。

○新技術の開発

クロスロードの設問作りが、実は課題を理解し、共有する非常によい研修であることは、研究会では早くから認識し、一昨年の星和台での実施を含め、主催者と共に設問の作成や選定を極力行なうように努めてきました。

8月26日の星和台での２回目のクロスロードでは、星和台・鳴子防災福祉コミュニティの役員でもある吉本さんが、準備段階での会合に設問作りを取り入れました。設問作りは、本番へ向けて主催者側のムードを盛り上げることにもつながりました。星和台でのクロスロードについては、クロスロード新聞第14号に掲載しています。

これを一つの研修の場で実現させているのが“西クロスロード”。詳細は、クロスロード新聞第12号をご覧いただきましょう。

○新分野の開拓

クロスロードの可能性を探求するうえで、防災以外の分野への展開も大きなテーマの一つです。神戸クロスロード研究会は、これまで、防犯、保健師、まちづくりなどに活動を広げてきました。

そして、浜さんが、“子育て”分野を開拓しています。その詳細も、後日投稿予定です。

◆その他の議題

神戸クロスロード研究会は、当初３年の活動を予定していましたが、活動の広がりと深まりを考え、もっと活動を楽しむため、活動期間を延長することとしました。そのため、メーリングリストを作成してメンバー間の情報共有を容易にすることにしました。

また、研究会のマークも決定しました。６月の亀岡市職員研修で使用したデザインがそれです。

このほか、研究会の座布団製作状況の報告やこの後の活動予定について情報交換がされました。

懇親会は、近くの居酒屋で。クロスロードのほか、ワールドカフェという手法について西さんから話題提供があったほか、様々な話題が飛び交い、結局１０時２０分頃解散となりました。

今後の活動については、須磨区での子育てクロスロードが２回予定されているほか、他自治体や神戸市内でのクロスロードも予定されています。今年も、無理をせず、着実に活動を続けたいと思います。皆様、今年もよろしくお願いします。

(神戸市職員　柿本雅通さん)

↑ファシリテーションフォーラム(5月27日)における西クロスロードの録画を研究

神戸クロスロード研究会

神戸クロスロード研究会のマーク決定！

オリジナル座布団制作！

ベトナムでのクロスロード

2006年8月16-18日、ベトナム共和国の首都ハノイで、小規模坑夫委員会Communities of Artisanal/Small -Scale MiningーASIA（以下CASM-ASIA)のワークショップが開催されました。小規模抗夫（スモールスケール・マイナー)とは、手掘りで、金などを採掘する人々のことをいいます。世界中で1000万人くらいいるといわれていますが、貧困な層が多く、事故や環境への影響などが問題となっています。たとえば、フィリピンでは、地震が多発する地帯で、手掘りで坑道を作って掘るため、落盤事故や地震で多くの人が亡くなっています。

このワークショップでは、ティアガラヤンが考案した「ゴミ処分ゲーム」(1991)と「クロスロード」が採用されました。両方のゲームにおいても、学習しようとするのは人びとの意志決定過程といえます。

2つのゲーム開始に先立ち、ワークショップでは「ジレンマ」を理解することから始めました。用いたのはトランプ・カードゲームの「ダウト」です。

「ダウト」は数人が1つのグループをつくり、参加者が配られた手持ちのカードを早くなくしていくことを目的とするゲームです。カードは、ある人を起点にして1、2、3･･･と順に裏側にしてテーブルに捨てられます。それに対して、捨てられた実際のカードの数字と、本来捨てられるべきカードの数字に食い違いがあると思ったら、他の参加者は「ダウト」と声をだすことで、そのカードを正否を確認することになります。そして、捨てられたカードが本来あるべき数字と異なった場合、そのカードを捨てた参加者はテーブル上のカード全部をもらうことになります。逆に、ダウトをかけた参加者が誤った場合、その人物がテーブル上のカードを受け取ります。どちらにしても、カードを処分することが遅れることになります。

ティアガラヤンが考案したゴミ処分ゲームはかいつまんで言えば次のようなものです。有害ゴミの適切処分は有料である。これによって環境汚染・破壊は抑制できる。一方、その費用を惜しんで不当・不法廃棄すると、目先の処分経費は節約できる。しかし、不当・不法投棄のゴミが臨界点に達すると地域共同体全体が崩壊します。地域住民が持続可能な生活活動を実現していくためには、有害ゴミ処理についてどのような対応をするのか重要になります。このゲームでは、トランプ・カードゲームと同じように、有害ゴミを不当・不法投棄をしたかもしれない人に対して、ゲームの他の参加者は「ダウト」を投げかけることができます。ダウトをすれば、この種のゴミの投棄処分を「発見」することができます。見つけた場合には報奨金を得ます（収入）。ただし、このダウトが間違っておれば、すべての有害ゴミを引き受けて、自分が処分しなければならない羽目になります。有害ゴミの処分が有料で将来的には地域のためになる点、経費を避けるための不当・不法投棄は地域社会には不利になるということを（ただし自分の目先の利益にはなる）、参加者は即座に理解されました。

次はクロスロードです。クロスロードのセッションは2つに分けました。最初は、クロスロードが生まれるきっかけとなった阪神淡路大震災の時に、現場で働く人びとが直面した問題を精選した事例の紹介をしました。そして、2つめは参加者が実際のクロスロードを考案する作業をしました。

参加者の大半の目には、古着、食料の事例（神戸編）が深刻な問題となるのかが分かりにくかったようです。

ほとんどの国の参加者からは、古着が避難者の間で引き取り手がないということが理解しにくかったようです。また、ドイツ人研究者からは、別の災害(それが自分のところか、海外かは不明だが）に備えて、保管し、必要になったらすぐ送りつけるという発想はないのか、という質問が出されました。

同様の指摘は、食料分配でも出されました。配布しなかったということが公平性の反映である、ということが分かりにくかったようです。

こうした事例に対して、すべての参加者がジレンマをすぐさま理解できたのは、上司の指示に従うかどうかを尋ねている事例(神戸編)と、下に示す喫茶店でのアルバイト学生の例でした。ここでは、すべての参加者が、アルバイト学生が困った状況に置かれていることを理解していました。

事例（クロスロード愛教大編2006:問題2040655：セルフうどん）の改編

セルフ・サービスの喫茶店。少し怖そうな男性が席に座って注文した。しかし、セルフ・サービスなので注文後自分で品物を運んで欲しい伝えると、その男性は不承不承したがった。ところがその直後、明らかに歩くのに支障のありそうな老人が来店したとたん、コーヒーを注文した。あなたはコーヒーを運ぶか？

こうしてできあがった問題のうち、1問を紹介します。

【スモールスケール・マイナー編（1）】

あなたは、政府職員。スモールスケール・マイナーが、金を採集するのに、毎日シアン化合物を使用している。この化合物は環境に対して非常に有害であるが、そうしなければ彼らの生計が成り立たない。使用を認める？

⇒YES（認める）／NO（認めない）

実際、参加者の半数以上から、自国に戻ったあと、クロスロードの導入を検討したいという声があがりました。モンゴルから参加したNGO責任者からは、ジレンマ把握のための訓練としてトランプ・カードゲームを、そして多角的視点検討のための道具としてクロスロードを児童教育に取り入れてみたいと発言がありました。

(静岡大学人文学部
鈴木清史先生）

例によって年度末！
ばたばたも楽しい16号

大人ダックは替え歌で健康体操

呉市社会福祉協議会では、フィットネスクラブ運営の医療機関(飛翔会)と連携して、高齢者向けのダックのアレンジをしてくださっています。詳細な内容は、この方式を考案された近藤吉輝さんから次号でご紹介いただきますので、ご期待ください。「気になる」という方のために、今号では、ちょっとだけ、ご紹介します。

大人ダックは「うさぎとかめ」の替え歌を歌いながら健康体操を行います。1番ごとの歌詞がダックの動作(例えば1番なら「ダック」)に対応しますが、体操としては歌詞1行につき1動作、1番で4つの動作を行うことになります。右下に1番の歌詞をご紹介しましたので、ちょっと歌ってみてくださいね♪

それぞれの動作は、さすがフィットネスクラブの方が考えられただけあって、どれも理論的な裏付けがあり、本当に健康につながるようなものとなっています。高齢者向けを意識して作られていますので、無理のない動きなのですが、30分もやると、汗がにじむほどの運動量です。

高齢者の方だけでなく、防災訓練の前の準備体操としてもおすすめです。身体をほぐして訓練のけが予防をしたいものですね。打倒Wii Fit!

上：夢中になってカメラが追いつかないほどの激しい動きになることも！

うちらのため
(「うさぎとかめ」のメロディーで)

1. もしも地震が起きたなら
   まずは頭を守りましょう
   両手で頭を抱え込み
   机の下にもぐりましょう

(以下ダックの内容に合わせて12番まで続きます)

クロスロード進級者発表です！

以下の方を上級に認定いたしました。(敬称略)

【上級】 静岡県西部地域防災局　小林　哲

【応募先】108-8345　港区三田2-15-45
慶應義塾大学商学部　吉川肇子研究室内
クロスロードサポーター事務局

電子投稿はこちら↓
http://maechan.net/crossroad/toukou.html

さて、問題です：自然なのはどっち?

©やなせたかし

ソナエーター連載第4弾！真打ち登場！

平成１６年度に行われた県民意識調査によると、ガラスが壊れて飛び散らないための対策をしている高知県民は1.4パーントしかいませんでした。このとき、同じ調査を行った三重県で2.3パーセント、和歌山県で1.7パーセント、徳島県で1.8パーセント。どの県も家具固定より進んでいない状況でした。（平成１９年度の調査結果でも、それぞれ1、２パーセント程度の伸びでした。）

昭和南海地震の経験者が「昔はこれほどガラスが日常的になかった。ガラス対策も忘れず、もっと啓発すべきだ」と電話をくださったことがあります。平成１９年１２月に市民主催で行われた「市民がつくる防災フォーラム」で、ガラスをねじって割ってみせる実験をしていました。また、飛散フイルムを貼ったガラスもねじって見せてくれました。前者が客席でもその恐ろしさに思わず身を引くほど飛び散ったのに対し、後者は大きなヒビが入るものの貼り付いたままだったので、「こんなにも頼もしいものだったのか」と感動しました。このときにこの実験を目の当たりにした子育て中の主婦が、後日「貼ろうと思ってフイルムは買っていたものの、貼る決心がつかなかった。けど、家に帰って早速貼った。」という話も実際していました。

実際、割って見せて、フイルムの有り無しを知るのが効果的ということです。ガラスはもったいないですが、啓発効果はかなり大。私は、今の家に引っ越す前に、ガラス業者にすべて貼ってもらっていたのですが、割ってみるわけにもいかず、効果はぼんやりとしか知らなかったのです。これからは、胸はって、また力を込めて、県民のみなさんに、フィルム貼りの効果を訴えていけます。

職場の食器棚を職員同士で貼ったことがありますが、良い体験でした。貼った仲間となんだか和むのです。貼るときに、ピッと四方の端をお互い持って張っていないといけず、呼吸を一つにして、空気穴を残さないようにフィルム貼りに集中。そんな体験が、気持ちを和ませるのです。各学校でも、この窓は１班、この窓は２班と決めて、フイルム貼りの綺麗さを競い合うと、クラスの輪もできるし、うかつに物をぶつけてガラスを割ろうとは思わなくなると思いますよ。また、最近家族の会話の減ったと思うご家庭もおすすめです。ひとりで貼ったら「なんで自分だけしなくてはならないのか」と涙と愚痴の数だけ空気穴ができると思います。高知県では安芸市の自主防災組織が、保育所のガラスに飛散防止フイルム貼りをする講習会を行い、技術の習得と災害時要援護者支援を兼ねた活動をしています。

私の家では、窓だけでなく額のガラスもすべて飛散防止フィルムが貼られています。防災イベントのときに、これらの額を持っていって、通りすがりの体験者にフイルム貼り体験をしてもらったからです。練習台になるという覚悟はいりますが、結果は一石二鳥でした。

フイルムを貼ることの他に、ほかに靴を枕元に置いて寝るということも習慣づけたいものです。クリスマス・イブには、靴下を置いて、プレゼントを楽しみにしますが、南海地震や津波のおそれのある高知県では、「靴を枕元に置いて寝るのを習慣にしておくと幸せになる」ということを風習や言い伝えにしないといけないと思います。

「小溝さんは、本当に、枕元に靴なんて置いて寝ているの？」ととある本県の職員(防災部局以外)から笑いながら聞かれました。「あれほど啓発しているのに・・・、被災時無事に参集しなくてはいけない行政職員のくせに・・・、まだ置いて寝ていないのか！」と怒りたいのをぐっとこらえて、「私の悩みは、置くか置かないかのレベルじゃない。その靴を安全靴にしたいが、２２．５センチの安全靴がそこらの靴屋に売っていないのが悩みだ」と、こんなため息をつくたび、「あっ、これ、防災四コマ漫画のネタに使える。ラッキー！！」と思いながら、ソナエーターへの道を日々究めております。

(高知県地震・防災課主幹　小溝智子さん)

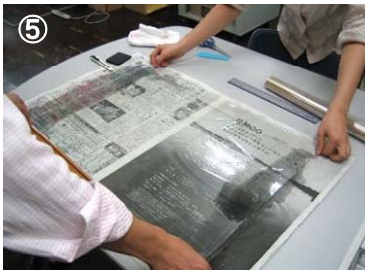
これが証拠！
かごの中の安全靴、ヘルメット、懐中電灯に注目！
(非常持ち出し品、医薬品も入っているそうです)
赤いのは、そう、ソナエーターの必須アイテム「ホイッスル」！

堂々公開！飛散防止フィルムの貼り方

【用意するもの】
・ガラス飛散防止用フィルム
・新聞紙、ぞうきんなど
・霧吹き
・スプレー用の液体
　※フィルムに同封されていない場合は、台所の液体洗剤を薄めて使います。
　（水200ccに対し洗剤2～3滴）
・ヘラ（フィルムに同封されていることもあります）
・カッター・ものさし

用意するもの
ア．霧吹き(スプレー)、新聞紙
イ．へら、はさみ(カッター)

手順
①まず、ガラスのサイズにあわせてフィルムを切ります。少し大きめに切るのがコツです。（⑧の作業が苦手な人は、少し小さめに切ることもおすすめ）
②フィルムは2枚圧着になっていますから、これをはがします。（フィルムの角の表裏に、セロテープをそれぞれに一枚ずつ、９０度の角度をつけてはり、そのセロテープをもってはがすと、はがしやすいです。）
③飛散防止フィルムの裏に霧吹きで専用液(ない場合は、台所洗剤を薄めたもの)をまんべんなく吹き付けます。
④ガラスの方も専用液を吹き付けます。
⑤フィルムをガラスに貼りあわせます。共同作業が美しい。。。
⑥再度全体に専用液を吹き付けます。
⑦へらで専用液を押し出します。内から外へ、空気泡が残らないように慎重に。
⑧はみ出したフィルムをガラスにあわせて切り取っていきます。



乾かして、できあがり！

こんなところに心理学(17)：人間に合わせたモノづくり

前回人間工学という分野をご紹介しましたが、その続編です。

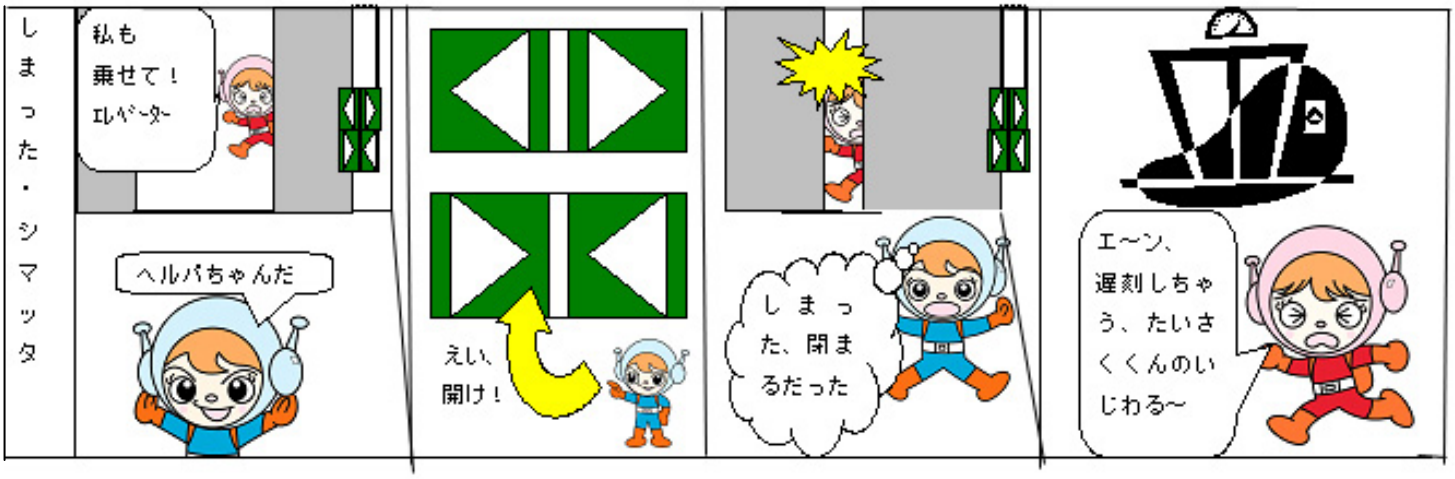
機械については、基本的に人間の自然な思考にあわせた設計が考えられています。たとえば、ダイヤルなら時計回り(右)に回すと増える(速くなる)、あるいはレバーなら上に上げると増える、というような具合です。皆さんの身の回りの機械のつまみやレバーでチェックしてみてくださいね。

ただし、水道の蛇口については、「レバーを上に上げると水が出る方が自然」と「レバーを下げれば水が出る方が自然」という2通りの考え方があって、日本では、2大メーカーが別の方式の蛇口を作っていました。しかし、阪神・淡路大震災をきっかけに、レバーに落下物が当たって水が出しっぱなしになる、という問題が提起され、最近の製品はすべて「あげると水が出る」方式に統一されています。皆さんのお宅の蛇口はどちらでしょうか?

緊急時に使う道具も同じです。心理的にパニックになったとき、非常口の扉がノブを回さないとあかないとか、手前にひかないとあかないとか、ややこしい操作のものでは逃げおくれてしまいます。そういうことがないように、体当たりする(正確には扉についているレバーを押す)ことであけられる、文字通り「パニックドア」と呼ばれているドアがあります。皆さんの身近にもあるはずですので、見つけてみてください。ただ、パニックドアの反対側には取っ手などがなく、あけられないようになっていることがほとんどです。この意味でセキュリティの高いドアでもあるので、見つけてもむやみにあけて外に出ないでくださいね。戻れなくなるかも？

津波防災の町として知られる岩手県宮古市田老地区の道路を見てください。津波がきても避難しやすいよう、見通しのよいまっすぐな道路が整備されています。これならいざというとき迷わず避難できますね。

左：レバーを上げると水が出る
上：パニックドア(レバーを押して脱出！)
下：岩手県田老町(現宮古市)の道路。奥に見えるのが津波防波堤

しまった・シマッタ

©やなせたかし